



音楽の魅力に魅せられて、志を持って意欲的に活動されている3人グループcharmの代表・惣田詩織さんに、熱い思いを語っていただきました。



No.274

## 音を届ける理由

蓮輪自治会 惣田 詩織

コンサートに集まってくださった方の心にその瞬間魔法がかかるように。

演奏活動を行うには編成が珍しいアンサンブルのため、楽譜のアレンジや、個人練習、3人での練習時間が必要です。メンバーそれぞれが他の仕事と両立しながら演奏の仕事をしているため、これらの時間を作ることにはなかなか簡単なことではありません。しかし、聴いていただくからには、その方の時間を無駄にしたくない。依頼を下された方、お客様、その時間を共有する全ての方々に喜んでいただけるよう、3人で意見を出し合

グループ結成は2008年。音楽大学を卒業後、地元に戻り「自分たちの故郷で沢山のの人に音楽を届けたい」「今まで勉強してきたことを披露する場が欲しい」という思いから活動を開始しました。次第に演奏依頼を頂けるようになり、披露するだけではいけない、自分がお客様の立場であつたら何を求めるか、どうしたら満足できるかを考え、クラシックだけでなく童謡やポップスなど、客層や場所に応じてプログラムを組みコンサートを行うようになりました。



い準備をしています。今年で結成8年目。この活動を続けられるのは、コンサートに足を運んで下さったお客様から温かい言葉を頂き、改めて「音楽」が持つ偉大なパワーを私たち自身感じられるからです。音楽は全世界共通の言葉であり、老若男女関係なく本来誰の心にも馴染みがある、生活の中にとっても身近で必要不可欠なもの。その日、その場所で開催した音楽が私たちcharmの音楽なのであれば、コンサートに集まってくださった方の心にその瞬間魔法がかかるように…。一度きりの出合いを大切に、charmの音楽を通してこれからも多くの方と繋がっていきたいと心から願っています。

### 【クラリネット・マリンバ・ピアノアンサンブル charm】

- ♪ clarinet…惣田 詩織 ～ Shiori Souda ～
- ♪ marimba…吉富 麻衣 ～ Mai Yoshitomi ～
- ♪ piano…金屋 美智子 ～ Michiko Kanaya ～

charmの活動はFacebook…【クラリネット・マリンバ・ピアノ アンサンブル charm】でご覧下さい。  
愛犬と一緒に楽しむチャリティーコンサート“Wan Love…” 今秋も開催予定です。

◇問合せ先 charm\_music2008@yahoo.co.jp



▲演奏を披露するcharmの皆さん

# 恩師との再会

田布施農工高等学校長

西村 悟

今春の校長研修会で、大学の恩師(卒業論文指導担当)と再会を果たしました。講師と謝辞担当者という関係で、卒業依頼35年ぶりの再会でした。不肖の弟子(弟子と言ふこともおこがましい)で、学生時代はろくに講義を聴いていなかった私は、この日ばかりは一言も聞き逃しては…と緊張して会に臨みました。

先生の講演は、臨床心理学(心理療法)の立場から見た、日本の教育が置かれている厳しい状況についてのお話でした。その厳しさとは、若者の自己肯定感(自信・意欲など)の低さであり、「私たち教育に関わる者は、そのような若者を育ててきたことを自らに深く問い直す必要がある」と講演を始められました。内閣府「子ども・若者白書」や心理実験・臨床経験などのお話を聞きながら、明治大学の諸橋祥彦教授が『教師の資質』に「いじめを初めとする問題行動

の根底には、自己肯定感の欠如がある」と記されていることを思い出しました。

浅学の私には、結論が気になります。「では、どうしたらよいですか」と問いたくなります。先生の教えはシンプルでした。「誉めることです(肯定的評価)。誉めて、誉めて、誉める」とのことでした。講演の中では、それを「心の花束を贈る」と表現されました。相手の中に3つの良いところを見つけ、伝える。いかがでしょうか? 簡単だと思われた方は、いらっしやいますか? 「誉められることで自信が生まれ、意欲が育まれ、他者に対する肯定的言動をも呼び起こされる」との説明でした。現代を『呪いの時代』と喩えた内田樹(うちのき)神戸女学院大学名誉教授は、批判や叱責など攻撃的な言動があふれる現代に対して「他人を呪うことは、自分を呪うこと。ありのままの自分を愛し、もつと他人を祝福しよう・・・」と述べておられます。講演の中で、先生がふと漏らされた言葉が印象的でした。「大変ですけど、誉める方が、自分も幸せになれるんですよー」先生、「よく聴いていたね」と誉めていただけのでしょうか?

No.172

# サークルウォッチング

## 田布施短歌教室



- 講師 久保敬
- 日時 第2月曜日 午後1時～
- 場所 中央公民館 和室B
- 代表者 城恭子
- 問合せ先 ☎55-6238



短歌は、日本文化を代表する韻文抒情詩です。5・7・5・7・7の31音律の中に、喜びや悲しみなど自分が感じたことや見た風景、自然などの有様を言葉にして、文芸作品を創造するという喜びが味わえます。今月は田布施短歌教室をお訪ねし、短歌を楽しまれている様子をご紹介します。月1回の教室がある日に、自身が詠んだ短歌について皆さんで批評し合った後、久保敬先生のアドバイスを頂き、完成度の高い作品に仕上げます。詠み手の表現を想像し、皆さん思い思いの意見が出て、楽しく会話が弾んでいました。

短歌を始めた理由をお聞きしたら、短い作文に思えてできる気がして始めたという方や、以前大ブームとなった「サラダ記念日」が好きで、母も短歌が趣味だったことから始められた方、同じく父あるいは母の趣味を継がれた方などきっかけは色々です。また、母が残してくれた短歌は、アルバム写真では感じられない、母の心が残っている気がするというお話も聞きました。この教室でも、皆さんが詠んだ作品は、自分史として日記のように書き貯めているそうです。毎回和やかな雰囲気です。楽しんでいきますので、興味のある方はぜひお気軽にお越しください。